



発行所
 公益社団法人
 福島県看護協会
 会津支部
 ……
 〈編集責任者〉
 山田 香代子
 〈発行者〉
 広報委員会

皆さまに感謝



支部長
 山田 香代子

「教育」の研修では「意思決定支援」について竹田総合病院のがん性疼痛看護認定看護師の小椋和子先生の講演でした。患者や家族の方々との挨拶から始まる関係づくりや日頃の悩みの解決方法など、すぐ実践に活かせる研修でした。看護研究では、八演題の発表会に百五十名を超える参加があり、看護研究や実践報告を間近に触れる貴重な機会となりました。

「地域看護活動」では、会津若松市健康まっりの「まちの保健室」では、会津中央病院の糖尿病看護認定看護師らによるフットケアの内容も加わり、三百名を大きく超える来場者がありました。

「広報」では、福島県看護協会の佐藤博子会長から看護協会活動報告、会津保健福祉事務所の太竹香織先生から会

津地域の健康課題について講演がありました。老々介護など退院支援や退院調整の困難事例や解決に向けた取り組みについて共有できる研修となりました。

最後に、十一月の竹田総合病院で行われた日本看護協会 秋山智弥会長の講演会に参加しました。テーマ「地域を支える病院で働く看護師の未来」の中で、会長自身の患者や家族に寄り添った看護や意思決定支援などに触れ、プロフェッショナルとして「まもる」、「とどける」「つなぐ」役割や、「看護の将来ビジョン2040」の看護職が活躍する基盤となるものにある「看護職一人ひとりのウェルビーイングの重視」を強く意識しました。



皆さま一年間ありがとうございました。

会津支部活動報告

開催日	内容	場所
6月14日(土)	まちの保健室	道の駅あいづ湯川・会津坂下
7月26日(土)	ふくしま看護体験イベント	スマートシティAiCT
8月19日(火)	看護管理者懇談会	竹田総合病院竹田ホール
9月 6日(土)	まちの保健室	道の駅 喜多の郷
9月19日(金)	教育研修会	アピオスペース
11月 2日(日)	会津若松市健康まつり	会津若松市文化センター
12月 2日(火)	看護研究発表会	アピオスペース



地域看護活動について

地域看護活動副支部長 長谷川 昌子

地域看護活動ではまちの保健室、看護体験イベントを実施しました。

まちの保健室は、道の駅や公共施設等で身長や体重測定、血圧測定や握力測定を実施しています。看護職に、健康に関する不安や介護の相談などを気軽に相談できる場となっております。今年度は道



まちの保健室



の駅あいづ湯川・会津坂下、喜多方市ふれあいパークの喜多の郷と、会津若松市健康まつりが行われた会津若松市文化センターで実施しました。今年度初めて喜多の郷で実施しましたが、多くの方々に利用いただき、「握力測定をする機会がなかったので(測定できて)良かった」「薬を飲まないことがあったので気をつけたいと思った」「フレイルを意識したことがなかった。良い機会だった」等の話が聞かれました。看護体験イベントは、看護の魅力ややりがい伝える看護体験イベントです。今年度もスマートシテイAICで実施しました。委員は毎回、多くの方に利



会津若松市健康まつり 会津若松市文化センター

用してもらおうように地域住民のニーズに合わせて活動したいと思っております。近くで「まちの保健室」が開催された場合は是非お立ち寄りください。今後とも活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

看護管理者懇談会報告

広報委員 長谷川 泉

令和七年度「看護管理者懇談会」を開催しました。令和七年八月十九日竹田綜合病院竹田ホールにて四十名の看護管理者の皆様にご参加いただきました。有意義な懇談会となりました。

第一部、福島県看護協会会長 佐藤博子先生より「福島県看護協会の活動について」、あらゆる場で役割発揮できる看護職の育成支援・地域包括システム推進のための看護機能の強化・看護職の確保・定着のための働き続けられる職場環境づくりの推進・福島県看護協会組織・経営基盤の強化についてのお話をいただきました。第二部は、福島県会津保健福祉事務所 健康福祉部副部長兼健康増進課長 大竹香織先生より、「地域包括



ふくしま看護体験イベント

ケアシステムの深化と推進 会津地域の健康課題の解決にむけて「福島県の健康状況や生活習慣病の現状の説明があり、会津地域での課題と保健福祉事務所の取り組み活動についての話をいただきました。第三部は、グループワーク、テーマ「在宅療養支援実践」の中の現状と課題について」を行いました。講師の先生方にもグループに入っていたいただき、ディスカッションを



行いました。各グループ共、活発な意見が出され問題を共有することができました。アンケートでは「他施設と共感できた」「有意義な情報交換の場であった」「継続を希望する」との声が多数寄せられました。次回への期待が寄せられました。今後もいただいた要望を参考に、より充実した会の開催に努めてまいります。



会津支部教育活動について

教育副支部長 五十嵐 由香里

今年度も皆様のご理解とご協力をいただき、「研修会」「看護研究発表会」を無事に終えることができました。研修会は、九月十九日竹田綜合病院がん性疼痛看護認定看護師の小椋和子先生を講師に迎え、「意思決定支援に必要な考え方」―患者のための意思決定支援のあり方―について講義をいただき、その後のグループワークでは、退院支援における困難事例などを話し合い、小椋先生からアドバイスをいただきました。参加者からは、具体的な事例の講演であり理解しやすく、日々の実践に活かすことができる内容であったと好評に終えまし



た。また、十二月二日には看護研究発表会を開催することができました。演題は八題あり看護援助の向上、職場環境の改善への取り組みなど、看護研究や実践報告の発表がありました。参加者から多数の質問があり、活発な質疑応答の時間があり、施設に持ち帰り看護実践に活かせるものでした。看護学生からは、「実習中の参加であったため、関心や疑問をもち聞くことができた。」「根拠に基づき自分もきちんと患者と向き合い援助していきたい。」など、臨地実習に取り組む意欲に繋がったと考えます。看護研究発表会にご尽力いただきました関係者の方へ、厚くお礼を申し上げます。最後に、今年度も会津支部教育活動に、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。次年度もよろしくお願いたします。



令和7年度 看護研究発表会 演題

【第I群】 座長 福島県厚生農業協同組合連合会 高田厚生病院 五十嵐 千春

I-1	認知症患者の安心で安全な療養環境を目指した取り組み ―認知症チームの介入率増加を試みて― 公立大学法人福島県立医科大学 会津医療センター附属病院 坂内 佳奈
I-2	離床CATCH使用による危険リスク回避の有用性 一般財団法人温知会 会津中央病院 木村 淳美
I-3	退院支援カンファランスシートの見直し後の結果と課題 福島県厚生農業協同組合連合会 高田厚生病院 橋本 恵子
I-4	在宅で経口腸管洗浄液を飲む患者の不安 ―必要なサポートの示唆を得る― 一般財団法人竹田健康財団 竹田綜合病院 宗像 知佳子

【第II群】 座長 一般財団法人温知会 会津中央病院 高橋 美奈子

II-1	弾性ストッキング装着患者のセルフチェックへの取り組み 福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生総合病院 栗城 有希
II-2	糖尿病足病変悪化後の患者の思いとセルフケア支援 ―A氏への聞き取りと退院支援を通して― 一般財団法人竹田健康財団 竹田綜合病院 長嶺 希瞳
II-3	透析患者のフットチェックから変化ステージモデル (TTM) を学んだ症例 福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生総合病院 大竹 チョ
II-4	病棟看護師の心理的安全性に関する実態 一般財団法人竹田健康財団 竹田綜合病院 吉田 亜衣





訪問看護ステーション こころのあい あいづ



訪問看護ステーションこころのあい あいづは、事業所から30km以上離れた地域の利用者が約4割を占める広域型の独立訪問看護ステーションです。精神科訪問看護を中心に、高齢・障がい・小児まで多様な支援を行い、「出逢い」「I(私)」「愛」の3つの“あい”を大切に、利用者の人生に寄り添う看護を提供しています。主疾患は統合失調症が最も多く、気分障害、発達障害、認知症、小児、身体疾患や介護が必要な方にも対応。医療資源の少ない地域にも積極的に訪問し、制度や年齢を問わず“必要な支援が届く体制”を整えています。8050問題、子育ての悩み、ヤングケアラー、不登校など地域の複合課題にも向き合い、訪問看護に加えて子ども家庭支援や居場所づくり、委託事業にも取り組んでいます。スタッフは看護師9名と事務職員で構成され、学び続けられ、働きやすくやりがいのある職場づくりを大切にしています。



編

集

後

記

記録的な大雪の冬がやっと終わったかと思ったら、春は短くそして長く暑い夏が待っていました。また、秋もあっという間に終わり今長い冬が始まりました。このような2025年度でしたが、会員の皆様のご協力のもと会津支部では予定通りの活動を行うことができ、充実したものとなりました。来年度もよろしくお願い致します。

広報委員

市原 智文 遠山恵美子
高埜 和枝 長谷川 泉